

2023（令和5）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1473300349	事業の開始年月日	平成13年3月1日
		指定年月日	平成13年3月1日
法人名	社会福祉法人 ふじ寿か会		
事業所名	高齢者グループホーム ふじの里		
所在地	(226-0021) 横浜市緑区北八朔町1857		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	9名
		ユニット数	1 ユニット
自己評価作成日	令和5年1月6日	評価結果 市町村受理日	令和6年4月8日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・入居者の笑顔を大切に考え、日常業務の簡素化する事、コミュニケーションや見守り等、入居者と一緒に過ごす時間を増やし人間関係を構築できるよう努めている。
・外出行事等を多く行い、ホームの中だけに留まらず外に出掛ける楽しさや景色・環境の変化により、いつもと違った「表情」を見られるよう支援をしている。刺激のある生活を送れるように支援している。
・「何でも一緒に」を基本姿勢として、日々の業務の中で入居者・職員共に「ありがとう」と言い合える関係作りに努めている。また、何でも一緒に行う事により入居者の細かい状態や思いを再確認し、入居者が我が家で生活している事と変わらない状況に近づけるサービスの実現に努めている。
・職員本位で1日の生活リズムを作らずに、入居者の希望を取り入れながら入居者のペースで日々の生活を送れるように支援している。
・地域の行事に出来る限り参加する事により、地域の一員として関りを持って顔なじみの関係を構築している。
・ご家族との関係を変えない様に、ふらっと遊びによれる「親の家」感覚になるよう窓口を大きく広げるように対応している。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和6年2月8日	評価機関 評価決定日	令和6年3月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、JR横浜線「中山」駅よりバスで「山下小学校入り口」で下車し徒歩10分程、または東急田園都市線「青葉台」駅からバスで「第一公園前」で下車し徒歩5分程の住宅や雑木林に囲まれた閑静な場所にあります。運営法人はグループホームの他、介護老人福祉施設など多くの福祉事業所を横浜市北部で展開しています。

<優れている点>

「入居者一人ひとりの生活づくり」に向け、日々の近隣の散歩や日光浴や、ほぼ毎月花畑の散歩などのドライブに出かけています。入浴の頻度は通常より多い週3回を基本とし、希望者には毎日でも入浴できるようにしています。食事は毎食職員が調理し、調理の音や匂いを感じてもらいながら温かい食事を提供しています。職員も利用者と一緒に食事を取ることで利用者とのコミュニケーションや食事の楽しさにつなげています。日常生活の中の丁寧な支援に努め、利用者の家と思ってもらえるホームを目指しています。

<工夫点>

ホーム長は職員の意見・提案を安全性の問題を確認し受け入れ、まずは行ってみて評価しています。また、職員の介護福祉士等の資格取得を支援し、専門知識・スキルに優れた職員を育成しています。長く勤務している職員が多い職場環境です。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	高齢者グループホーム ふじの里
ユニット名	1ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	・法人の運営理念を、玄関正面の壁に掲示、ホーム独自の理念を休憩室に掲示している。日常業務やケアカンファレンスで振り返り、理念に沿ったケアの実践をしている。	法人の創業者が策定した理念を玄関に掲げ、入居者の笑顔を大切に「何でも一緒に」を基本姿勢としてケアに努めています。ホームではより実践的な独自の理念を「事業目的」・「運営方針」として作成し「入居者一人ひとりの生活づくり」に向け支援しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	・北八朔上自治会に所属し、地域のイベント等の情報を得て参加出来る様対応している。 ・近隣5箇所のGH、包括支援センターや各自治会と協働事業については現在活動休止となっている。	自治会活動に積極的に参加しごみ当番や清掃活動等に参加しています。2ヶ月ごとに来訪する元民生委員の理容師から茶話会等の地域情報を得ています。コロナ禍以前は入居者は祭りに参加し、ホーム長は自治会主催の認知症講座等で講演し協力しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	・上記協働事業で、地域に向けた勉強会等を実施していたが、コロナ過の為、本年度の活動は休止している。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	・運営推進会議は、本年度よりリモートや対面を活用し開催する様に努めている。会議録等については、ご家族や区役所に報告している。	コロナクラスターの経験から更に感染予防を徹底し取り組んでいます。運営推進会議はホーム長や職員による内部の参加で実施するケースが多くなっています。今後は状況を勘案し家族等の参加を検討しています。	コロナ禍の状況を勘案して、対面による開催及び、入居者や家族、地域代表・民生委員・地域包括支援センター職員等の参加を得て、隔月に実施されることが期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	・区役所高齢支援課、生活支援課との連絡を頻回に行っている。入居の相談やサービスの利用について情報交換を行ってなっている。	法人創業者の高齢者福祉の理念に即し、生活保護受給者の入居を受け入れ支援を実施しています。緑区・青葉区・港北区等の生活支援課担当者と相談し入居者支援に努めています。また緑区高齢・障害支援課の担当者とは毎月書類を持参し情報交換し連携しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束適正化委員会として、2か月に1回話をする機会を設けている。 ・資料等に基づいた拘束の無いケアの確認を行っている。 	身体拘束をしないケアに取り組み、職員と話し合いを重ねています。身体拘束適正化委員会の委員はホーム長と職員全員です。委員会は職員ほぼ全員が参加する「カンファレンス」の前後に隔月実施し、身体拘束のない支援に努めています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・リモートで研修に参加し虐待や拘束の無いケアの実践へ向けた情報の共有を行っている。 ・カンファレンスにて、資料等に基づいた拘束の無いケアの確認を行っている。 	虐待防止委員会は隔月に職員全員参加で実施しています。研鑽を積み入居者支援に活かしています。時に職員は入居者と、家族と接するような感覚になり、声掛け等に注意が必要となります。とっさに出してしまう行動制限の言葉掛けを見かけた際はその場で直ぐ注意をしています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ過の為研修等の参加が出来ていない。 ・成年後見人がついている入居者がおり、どのような関わりで入居者を支える事が重要なのか相談している。 		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入居前に十分な説明を行い、納得した上で入居をして頂くように努めている。 ・退居要件や医療的ケアが必要になった場合どのような対応が必要になるか等入居時に伝えている。 		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	<ul style="list-style-type: none"> ・家族や本人からの要望を迅速に実現出来るように努めている。ご家族には面会の際や電話で要望を聞いている。 	現在面会は居室で30分、5人までとしています。家族が持参した菓子などを預かり入居者に渡すこともあります。入居者の要望は、安全面を確認し可能な限り反映できるように努めています。テレビショッピング等での買物は家族や後見人等に一任しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	・毎日の申し送りやケアカンファレンス、日常業務中の意見や提案（フロアのレイアウトなど）を業務へ反映し実現に努めている。職員の意見について、まずは行ってみて評価する事を大切に考えている。	毎月行うケアカンファレンスの時や、日常の工作中に職員の意見を聞き話し合い、運営に反映させています。ホーム長は安全性の問題を確認し、問題のない事項は職員の提案を受け入れ実施しています。ターミナルケア等の支援にも提案を取り入れています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	・職場環境や条件を整備し、働きやすい環境の維持に努めている。また職員個々が向上心を持って働けるように、努力や実績を評価し伝えている。	ホーム長は日中の職員3人以上の勤務シフトを組み、有給休暇取得や残業0を実現し働きやすい職場づくりに取り組んでいます。法人では介護福祉士の資格取得や初任者研修修了などによる資格手当制度があり、職員のモチベーションアップに繋がっています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	・リモート研修や対面の研修に参加する様に手配をしている。 ・認知症の理解や対応について、現場での対応の話し合いや実践に努めている。	日本認知症グループホーム協会の研修等職員に必要な研修はホーム長が指定し、受講料・交通費を助成し勤務扱いで受講しています。半数以上の職員が介護福祉士の資格を取得し専門知識・技能を備えています。法人は「新人職員育成プログラム」も策定し取り組んでいます。	職員育成に取り組んでいます。今後は資格者育成と共にホーム内で身体拘束適正化や感染症予防・虐待の防止等の研修を定例開催され、継続したスキルアップの取り組みが期待されます。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	・緑区、横浜市、神奈川県、横浜高齢者GH連絡会、地域ケアプラザなど、今まで構築しているネットワークを活用し、得た情報をホームでの活動へ転化し質を落とさない様に取り組んでいます。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	・入居を希望される本人に、出来るだけ入居前に見学に来てもらうようにしている。その際に不安や要望、希望について聞くようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	・入居を希望される方のご家族には、必ず入居前に見学に来てもらっている。その際に不安や要望、希望について聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	・本人やご家族が、今何を求めているかの聞き取りを行い、ホームで生活を開始して頂き、随時評価を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	・ホームの方針として「何でも一緒に行う」が有り、洗濯物干しや食事作り、掃除等、入居者が活躍する場面を作り、職員から入居者に「ありがとう」と言える関係を作るように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	・コロナ過の面会の制限は多少緩和されている。随時面会等して頂く事と電話や手紙で本人の状態を伝えて、必要な情報を共有している。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	・本人の希望を考慮し、馴染みの人や馴染みの場所への関係が途切れないように支援している。 ・手紙や電話でのやり取りを支援して、会う事が出来ない状況下での関係をつなぐ支援をしている。	家族からの情報等で、入居者の生活歴や馴染みの関係を把握しています。愛読している新聞・雑誌の購読や本人使用の物品の購入等を支援しています。毎月の「ふじの里たより」はサイズをA3版と大きく読みやすくする工夫をし、入居者の写真や近況を知らせ家族の安心につなげています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	・日々の生活の中（食事、外出、レクリエーション、イベント、お手伝い、お茶会、等）での関わり合いを大切にし、お互いが支え合える関係作り、1つの大きな家族の様に考え対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	・サービス利用が終了してしまった場合でも、可能な限りフォローを行っている。退去後の相談等も受けています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・本人の言葉や思いを日々の会話の中で聴き取り、本人の希望を実現できるように支援している。 ・職員は本人の気持ちになってケアの実践をする様努めている。	入居前にアセスメントを行い、入居後も新聞や漢字の雑誌の定期購読を継続している人がいます。生活の中の本人との1対1の会話から、外出や食べたい物、やりたい事の聞き取りをして支援しています。利用者の家と思ってもらえるホームを目指しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	・入居前に本人やご家族にアセスメントシートに記入して頂いたり、昔話を聞いたりして、これまでの経過や生活歴等について把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	・日勤日誌、夜勤日誌、ケアノート、受診や往診ファイル等を見て状況を把握し、その日の気分や体調も合わせて対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	・ご家族面会時にケアプランについて話し合いや報告を行っている。介護計画は3ヶ月に1回の評価や見直しをしているが、細かい変更は随時カンファレンス等で話し合い修正をしている。	ケアプランは3ヶ月で見直し、毎月1回「ケアプランの会」で、担当職員を含めて入居者3人のケアプランの評価を行っています。同日に行うカンファレンスでは、入居者全員の状況や支援方法を話し合い、検討しています。更新したケアプランは家族に説明し、全職員に周知しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	・日々の変化は、日勤日誌や夜勤日誌に記入、特別な変化はケアノートへ記入し情報を職員全員で把握するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	・マスクを外さないで行ける所へ外出を少しずつ始めている。今まで培ってきた地域資源との関係は継続している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	・地域や自治会の方たちとの情報交換は継続している、また自治会の一員としての活動を行っている。元の生活に戻れた時には再び地域の一員として活動が出来る様に準備をしている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	・本人、ご家族の希望等（受診する前に連絡を行う等）を聞き、納得して頂いたうえで往診医や病院での診察を開始している。	入居前の病院を継続する人もいます。24時間対応の訪問医を選択している人もいます。歯科医と歯科衛生士は週に1回訪問し、希望者の診療と口腔ケアを行っています。訪問医以外の受診は家族の付き添いを基本とし、難しい場合は職員が同行支援をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	・週一回、健康管理として看護師が来て下さり、日常の入居者の変化や身体的状況について報告し、状態について観て頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時、ご家族と一緒に医師や看護師等に本人の状況を聞き、出来るだけ早くホームの生活に戻れる様に努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	・入居時に、今後起こりうる事について説明を行い、重度化した時にはどのような支援が出来るか、また対応が出来ない場合についても説明をする。 ・終末期ケアを行う場合は家族の協力が必要な事を伝えている。	重度化した時は、医師から家族に状態説明を行い、管理者から事業所の対応方法を説明しています。看取りの選択をした場合は、「急変時における対応についての同意」を得て看取りを行っています。振り返りも行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	・防災訓練時に救急対応について実技を行っている。またカンファレンスで緊急対応マニュアルの場所や内容を確認している。職員は応急手当や救命の講習を受けている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	・定期的（1年に2回以上）に防災訓練を行い、隣のホームや緑区消防署職員や地域の消防団、自治会長、地域住民の方が必要に応じて開催している。 ・BCPの作成をして対策を行っている。	土砂災害地域であり、年に2回防災訓練を隣接する3施設で企画して行っています。夜間想定時は、防災会社による疑似訓練を行い、通報訓練・消火器の取扱いや消火訓練を行っています。同法人内での連携も整備し、災害BCPも作成しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	・入居者は年長者であり、人生の先輩で有る事を敬い、尊厳や誇りを損ねないように配慮（特にトイレや入浴時）しながら対応を行っている。	入居者に対しては声掛けや言葉遣いに注意をしていますが、特に業務が重なる時の大きな声や、言葉がきつくならないよう話し合っています。排泄や入浴の際などには十分気を付けてプライバシー配慮をしています。気になる言動があった時は、すぐに注意をするようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	・本人の思いや希望を伝えられる様に促したり、選択や決定を出来るだけ自分でしてもらえる様に対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	・我が家で1日を暮らしているように、出来るだけ本人がしたいよう自由に過ごせるよう支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	・毎朝整容をし、自分で行えない方は職員と一緒にしています。 ・ひげそりや爪切りなど定期的に整えています。 ・散髪は2ヶ月に1回行っています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	・献立は配食業者任せになっているが、届いた食材をホームで調理しているので、作っている時の香りや音を感じてもらえる。 ・季節の行事などで、流しそうめんやBBQ大会なども実施している。	カウンターキッチンから職員が見守りしながら調理を行っています。調理している様子や音、匂いを感じてもらう事で食欲増進につなげています。週1回、乳製品の訪問販売では好みの物を自分で選択して利用者自身でお金も支払い、購入しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	・食事や水分の摂取量、体重測定の記事をつけて状態の把握を行っている。 ・個々の体調や食事量により、好みを取り入れた食支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	・毎食後に、歯磨きやうがいを実施している。 必要に応じて、歯科往診を受けている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	・パットやオムツは、出来るだけ使わず、排泄の自立が難しくなった時に段階を踏んで使用し、自立していた時のトイレ間隔に合わせて誘導し出来るだけトイレで排泄できるように心掛けている。	時間や排泄記録により個々の排泄間隔で声掛けをする事で、トイレで排泄ができるように支援しています。退院してリハビリパンツとパットを利用していた人が、声掛けでトイレに行くようになり、布のパンツで一人で排泄できるようになった事例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	・毎日AM/PMに体操をしている。散歩等の運動で腸の活性化を促し、乳製品の摂取や水分摂取を行い、便秘改善に取り組んでいる。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	・本人の希望に合わせ、毎日か2日に1回の入浴している。また前日に入れなかった方は優先的に入れるようにしている。音楽をかけながらの入浴などニーズに合わせた対応をしている。 ・入浴時に積極的に職員1対1になると会話を沢山する方もいます。	2日に1度入浴する事を基本としており、希望者は毎日入浴する事もできます。好きな音楽を聞いたり、会話をしながらリラックスしてもらえるように心掛けています。浴室、脱衣所はエアコンを設置しヒートショック対策として寒さにも気を付けています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	・昼食後に休憩時間を設けたり、自由に居室で過ごしたり本人のペースで生活をしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	・処方されている薬の説明書をファイリングしており、効用について確認出来るようしている。受診、往診の記録ファイルも職員全員に確認してもらっている。内服誤薬を防ぐ為に職員複数名でダブルチェックをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	・日々の生活の中で役割を持ってもらえるよう支援している（台所仕事、掃除、ほか）、散歩、日光浴、ぬり絵、お茶会、時々ドライブなど気分転換や楽しみを持って頂けるよう支援している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	・マスクを外さずに行ける所への外出の対応をしている。買物、散歩、外出行事（個別外出、親族との面会等）。	午後に職員と近隣の散歩や日光浴をしています。毎月、車で花畑の散策などのドライブに出かけています。靴や衣類などの個人的な買い物には同行支援もしています。家族や親族と一緒に出かけている人もいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	・本人が訴える時に施設で管理しているお金については伝えている。 ・お金を持つ事で安心感を得られる方には所持してもらっています。 ・ヤクルトに訪問販売に来てもらい、自分で選んで支払いをしてもらう事を毎週実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	・本人の希望により、ご家族や友人と手紙や年賀状等やり取りや電話など行っている。携帯電話を持っている方もいます。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・入居者の作った作品（季節ごとの作品、活け花、書道）、入居者の写真を飾っており、居心地良く安心して生活ができるように、室温や無用な刺激（音など）が無いように配慮している。	柱や梁も太く、天井が吹き抜けで天窓がある開放的なリビングになっています。換気にも気を付けています。壁には職員と一緒に作成した制作物や行事写真を飾っています。朝食後の清掃の時間は職員、入居者が一緒に掃除を行い清潔な居心地の良い空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	・本人本位で生活ができるように配慮している。畳の部屋でゴロゴロしたり自分の新聞の取っていて日光浴をしながら読んでいたり、ソファでうたた寝する方もいます。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・居室内は、本人馴染みの物を持って来て頂き、移り住む事の違和感が少なくなるように、ご家族や本人と相談して家具等を設置している。	電動ベッドを持ち込んでいる人もいます。使い慣れたダンス、テレビ、炬燵付きのテーブルやイス、仏壇、壁掛け時計、使い慣れた小物などを持ち込み居心地の良い、本人が使いやすい居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人一人の能力に合わせて、自分で出来る事を奪ってしまわないよう、安全に配慮したうえでの、自立支援を行っている。		

2023年度

事業所名 高齢者グループホーム ふじの里

作成日： 2024年 4月 2日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	コロナ過だった為、研修自体が減少していたり、リモートになっていた為、参加の頻度が減少している。	職員のスキルアップに向けて、外部研修等への参加を積極的に行える環境を整備する。	外部研修の情報を職員へ掲示し、参加したい研修を確認してもらう。 施設内の状況にもよるが、参加したい研修へ出られるよう支援する。	6ヶ月
2	3	5類にコロナ対応が緩和になっているので、現状、書面等で外部へ報告している運営推進会議を、家族や有識者の参加型に修正する。	コロナ発生以前の姿に戻す事に加えて、集団になる為感染が発生しないような対応を行う。	関係者への運営推進会議の開催と参加の連絡を行う。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月